

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議経過要旨

会 議 名		令和8年度 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会		
日 時		令和8年9月9日（水） 10時00分～12時00分	場 所	木津川市役所 第二北別館 会議室
出席者 ■ 出席者 □ 欠席者	委 員	【第1号】 ■中澤孝之 委員 ■田中啓之 委員 【第2号】 ■真山達志 委員(会長) □松畑尚子 委員(副会長) 【第3号】 □市川浩之 委員 □阪口正吾 委員 □中野龍平 委員 ■田中誠二 委員 ■角野宗久 委員 □松尾有基 委員 ■佐脇貞憲 委員 □西村正子 委員 ■三上かず子委員 ■川崎あき 委員 ■森 忠彦 委員 ■浦辻克碩 委員 ■松本藍 委員 □大倉竹次 委員 ■奈良匡訓 委員		
	事 務 局	小川政策監 茅早企画戦略部長 西村企画戦略部次長兼学研企画課長 新田学研企画課主幹 森本学研企画課長補佐		
議 題		1. 開会 2. 挨拶 3. 委員紹介 4. 議事 ・木津川市デジタル田園都市構想総合戦略令和7年度の取り組みについて 5. その他 6. 閉会		
会 議 結 果 要 旨		1. 開会 事務局から開会を宣言した。 2. 挨拶 政策監より開会の挨拶を行った。 3. 委員紹介 事務局より委員の紹介を行った。 4. 議事 資料1「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略～令和7年度の取り組み～」に基づき事務局から説明を行った。 5. その他 なし 6. 閉会		

会議経過要旨 ◎会長 ○委員 ⇒事務局	1. 開会 会議結果要旨のとおり。 2. 挨拶 地方創生は、人口減少の克服及び東京一極集中の是正を目的として、平成 26 年から進められており、本市では令和 5 年度末に、「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略」を策定したが、市の人口も令和 4 年から 5 年頃をピークに減少へ転じており、人口減少を意識したまちづくりが求められている。令和 7 年度は、恭仁宮跡の特別史跡指定や大阪・関西万博 2025、けいはんな万博などの大きな動きがあったほか、市民や地域とともに積み重ねてきた取り組みも着実に進展した。本日は、これらの取り組みについて報告するので、忌憚のない意見をいただきたい。 3. 委員紹介 会議結果要旨のとおり。 4. 議事 木津川市デジタル田園都市構想総合戦略令和 7 年度の取り組みについて 【主な意見・質疑等】 ○KPI について、令和 7 年度実績が令和 10 年度目標値を既に上回っている項目がある。例えば、木津川アート来場者数は令和 7 年度実績が 25,000 人であるのに対し、令和 10 年度目標値は 12,000 人となっており既に達成しているが、その点はどう考えればよいか。 ⇒木津川アートについては、令和 7 年度にけいはんな万博と共同開催したことにより、多くの方に来場いただき、総合戦略策定時の想定を上回る結果となった。今後の木津川アートのあり方については、市として検討していきたい。一方、年少人口や生産年齢人口については、市全体の人口減少が推計よりも早く進んでいることから、目標値の達成が難しい状況となっている。 ◎KPI には既に目標を達成しているものもあるが、達成したから取り組みを終了するものではない。他自治体では KPI を見直す例もあるが、本市では現行の目標値を踏まえながら、必要な取り組みを継続していくものとする。 ○KPI や評価項目は、どのような検討過程を経て設定されたのか。その設定根拠や庁内での協議内容が分からなければ、委員として評価することが難しい。 ⇒国が示す総合戦略の構想に沿って項目を整理するとともに、地方版総合戦略として木津川市の特色を示すことができるよう、各部局と協議しながら KPI
---	---

等を設定している。

○学研企画課が全体の方向性を定め、各担当部署と十分に検討した上で KPI を設定したという理解でよいのか。例えば、観光入込客数は令和 10 年度の目標値が 100 万人となっているが、どのような根拠で設定したのか。また、その目標を実現するための具体的な施策は整理されているのか。

⇒KPI は、各担当部局において内容を精査した上で設定している。木津川市には、豊かな文化財や関西文化学術研究都市としての先進性など、多くの方に来訪していただける分野があるため、観光入込客数については現況値より高い目標を設定し、その達成に向けて取り組むこととした。

◎KPI については、何を指標とするか、目標値をどの水準に設定するかについて意見が分かれるところである。基本目標 2「新しい人の流れをつくる」は、観光客数など比較的分かりやすい指標を設定できるが、基本目標 3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」は、どのような KPI を設定すれば希望の実現を適切に評価できるかが難しい。新たな取り組みによる効果を人口推計と同程度の厳密さで算定することには限界があるため、委員会では各事業の取り組み内容と実績値を照らし合わせ、数値が妥当かという視点からも意見をいただきたい。

○木津川アートの事業がなくなるのであれば、それに代わる取り組みが必要ではないか。木津川アートは木津川市の名刺のような存在であり、木津川キチキチプロジェクトも、木津川アートを発信するために立ち上げられ、関係人口の創出に貢献してきたと考えている。今後もキーパーソンとなる人たちが集まり、交流し、情報を発信できる場や接点をつくってほしい。

⇒木津川キチキチプロジェクトは、共創の先駆的な取り組みであり、行政だけでは結び付けることが難しい人と人との関係づくりや、関係人口の創出に貢献いただいたと認識している。活動を今後も残していきたいとの思いはある。また、現在の活動拠点については耐震性の問題により閉鎖することとなっている。これまで培われた楽しさやワクワク感をどのように生かしていくか検討が必要であるし、キチキチの代替の活動場所について行政が把握していない情報等があれば、提供いただきたい。

◎一つの事業を実施すれば基本目標全体が達成されるものではないが、木津川アートは基本目標 2 の主要事業として位置付けられ、KPI にも設定されている。総合戦略の計画期間中に事業がなくなるのであれば、戦略の趣旨が十分に生かされているという印象を持ちにくくなる。同じ内容でなくても、木津川アートの成果や役割を引き継ぐ後継事業として示せる取り組みを検討することが望ましい。

○観光入込客数はどのような方法で集計しているのか。入場料を支払って施設へ入館した人数を計上するなど、統一的な基準があるのか。また、けいはんな万博では地域が一体となって取り組むことができたため、その盛り上がりを今後も継続したい。けいはんな未来フェスなどを周辺市町と連携して実施するほか、木津川アートの後継事業についても、けいはんな学研都市全体や関係機関で知恵を出し合って取り組むことができるのではないかな。地域には意識や意欲の高い住民が多いため、キーパーソンが集まり、交流できる場の提供や人材の紹介にも取り組む必要がある。

⇒観光入込客数は、国が示す対象施設の利用者数を積み上げて算出している。同一人物が同じ日に複数の対象施設を訪れた場合は、複数回計上されることもあるが、全国的にも同様の方法で取り扱われている。一方、けいはんな未来フェスのように、木津川市内だけでなく、けいはんな地域全体のイベントや魅力を発信する取り組みについては、各市町村が把握する参加者数等を用いることで、地域全体の盛り上がりを一定程度、数値で確認することは可能と考える。

○観光入込客数について、令和6年度、令和7年度の実績は示されているが、令和10年度の目標達成に向けて、今後どのような取り組みを行うのかが見えない。例えば、令和7年度の事業実績とKPIの結果を踏まえ、令和8年度は何を改善し、どのような事業を行うのかが示されていれば、委員会としても議論しやすいのではないかな。

◎今回の資料は、令和7年度の実績を踏まえた評価が中心である。今後の方針にも一定の記載はあるが、具体的な内容が十分に示されていないとの指摘はそのとおりである。特に観光分野は、令和7年度にけいはんな万博による一時的な集客効果があったと考えられるため、通常の状態に戻った際の実績が課題となる。令和10年度の目標達成に向け、令和8年度、9年度の取り組みを具体化する必要がある。

○当尾地域では、市発足当初に「当尾地域力創造プラン」が策定され、地域にとっての起爆剤になるとの期待から、住民も集まって話し合いを行っていた。当尾には多くの古道があり、それらをハイキングコースとして活用する話や、コミュニティバスを活用して、市西部の新しい住宅地と東部の歴史ある地域をつなぐ構想もあったが、なかなか進展しなかった。現在、市へ相談しても過去の計画が十分に認識されておらず、総合戦略にもその経過が反映されていない。これでは将来像を描くことが難しいのではないかな。

⇒当尾地域力創造プランでは、当尾での木津川アートの開催があり、現代アートを地域の方々に受け入れていただいた土壌を活かし、当尾の郷会館と組み

合わせた地域づくりを検討・実施してきた経過がある。一方で、プランの内容が異動により、市の新たな職員に十分引き継いでいないことは課題と認識している。

○当尾の郷会館で開催された「とおのおと」は、地域にとって成功したイベントであった。その関係者との交流会で、市職員も交えて「とおのつぎのおと」と題して再び開催してはどうかと話したが、職員が過去のイベントを知らなかった。地域の発想や行動力、これまでの活動が行政内部で引き継がれていないと感じる。

○マインドトレイルというものがある。例えば奈良県東吉野村などでは、自然豊かな地域内に現代アートを配置し、マップを持って各所を巡る取り組みが好評だった。観光などの地域活性について何をもって成功とするのかを整理した上で、当尾の古道と木津川アートなど、個別に存在する地域資源を融合してはどうか。

○過去に当尾地域で木津川アートが実施されたことがあり、非常に好評であった。

○地域住民や関係者が「良かった」と感じる取り組みであっても、行政などが考える関係人口の増加や KPI などの目的とは一致しない場合もある。全ての人が満足する取り組みは難しいため、地域の思いと行政目標をどのように調整し折り合いをつけていくかも課題ではないか。

○大阪・関西万博で使用された「残念石」が 3 年後に市へ戻ってくると聞いている。その時期に合わせて、木津川市の歴史と結び付けたアート活動や、けいはんな地域の取り組みに活用できないか。また、全体的に KPI などの数字だけではなく、実際の活動に目を向けてほしい。防災分野についても、資格取得者数だけで終わってはいけない。防災士の資格取得後の活動が重要である。担当の危機管理課も尽力されており、ジュニアリーダーの養成、防災リーダー同士との交流などの機会の創出などが行われている。今後も女性リーダーや福祉施設との連携など、多様なつながりをつくることに力を入れてほしい。木津川市は新しい地域と古い地域に分かれているため、実際につながる機会を設ける必要もある。

◎基本目標 2「新しい人の流れをつくる」は、観光客を呼び込むことに重点が置かれているが、本来は市民が地域内で活発に活動しているかという視点も重要である。観光というのはもともと中国の易経に由来し、「国の光を観る」ことである。つまりその地域が光り輝き、その魅力を他地域の人が感じて訪れたいと思いい見に来ることであり、地域自体が活性化していなければ、本当の意味での観光にはつながらない。自地域の活性を念頭にいれる必要がある。

また、観光入込客数の現行の集計方法には限界もあるため、今後は位置情報等のビッグデータを活用して、人の流れを把握する方法も考えられる。

○資料1の12ページ記載のトイレカーについて、写真を見る限りでは階段に手すりがなく、安全面に不安を感じる。実際の利用実績はあるのか。また、リフト付きとされているが、車いす利用者だけを対象としているのか。高齢者など、階段の利用が難しい方も使用できる構造になっているのか。

⇒現時点では災害現場での活用実績はないが防災関係の取組で使用している。資料の写真では確認しにくいですが、階段には手すりを設置することができる。また、車両後部にリフトがあり、車いす利用者だけでなく、介助者を含むその他の利用者も乗ることができる。

○委員の意見を聞き、地域に対する熱意を持つ人が多いと感じた。一方、この委員会は半年に1回程度の開催であり、その間に意見を交換し、具体的な取り組みを進める場がない。木津川市では約2万人が高齢者であり、その中には元気で豊富な経験を持つ人も多いため、こうした「老人力」を生かすことを考えてほしい。地域の優れた活動や歴史が特定の個人に依存し、その人が活動をやめると継承されないことが課題である。人が集まり、意見や経験を共有できる場をつくり、幅広い住民の意見を前向きな計画に反映し、ひとつずつ実行できる仕組みが必要ではないか。

○鹿背山地域は、地域全体が主体的に活動している事例といえる。活動者の高齢化が進み、今後の人材確保や活動の継承が課題となっているものの、率先して活動してる地域である。

○色々な意見をいただいている。この委員会には総合戦略の進捗を確認する役割があり、新しい取り組みを直接提案する機会は限られている。しかし、実績を評価し、その延長として目標達成に必要な施策を考えることは重要である。木津川アート終了後の人の流れをどのように活発化させるかについても、単に観光振興として捉えるのではなく、地域が持つ魅力や活力を再評価し、市民活動を支えることで人の流れを生み出す取り組みを進めることが、本日の委員会の総意であると考えられる。

○雇用の観点でいうとこの戦略の重要なポイントは人口である。観光は市の魅力を知ってもらう手段の一つだが、訪問だけで終わらせてはならない。例えば、自動運転バスの実証実験についても、平常時の移動手段だけでなく、災害時の避難移動に活用できる可能性がある。木津川市を訪れた人に、訪問目的に関する情報だけでなく、地域での暮らしや就労、様々な活動の魅力も伝え、移住・定住や市内企業への就職につなげる視点が必要ではないか。また、地域の担い手は若者に限らず、元気な高齢者もキーパーソンとなる可能性が

あることも認識が必要。

○総合戦略に記載されている農業施策は、木津川市の農業の実態を十分に踏まえているのか。戦略にはスマート農業と記載されているが、現場では小規模農家の高齢化や衰退が続き、農地の維持や経営が困難になっている。スマート農業という言葉掲げるだけではなく、地域ごとの実情や担い手不足、農地の維持といった課題を踏まえた施策が必要ではないか。

⇒農業分野では、担い手の確保が最も重要な課題であると認識している。スマート農業は、デジタルの視点を取り入れるとともに、技術を活用して作業効率や経営を改善するための一つ的手段として位置付けている。令和6年度には、大型トラクターにGPSを装着して操作を支援する事業に対し、補助を行った実績がある。デジタル技術を導入すれば農業が成り立つというものではなく、あくまで課題解決の一助として活用することが重要と考えている。

◎小規模農家の高齢化が進む中、デジタル技術によって作業の一部を補うこともスマート農業の一つである。デジタル、DX、AIなどは導入自体を目的とせず、木津川市の農業や地域の実情に合った形で活用していくことが重要である。

◎予定していた時間となったため、議事を終了する。今回も様々な視点から意見をいただいた。今後の総合戦略の展開や具体的な施策の改善に活かしていただきたい。

7. その他
議事なし

8. 閉会